



大阪府中央会情報連絡員報告

府内中小企業の景況

2023年
4月

1. 4月のDIは、全9指標のうち6指標が上昇、主要3指標は、収益状況11ポイント上昇、売上高と業界の景況は3ポイント上昇している。
2. 4月末時点では、製造業では6指標のDIが上昇、また非製造業では3指標のDIが上昇している。

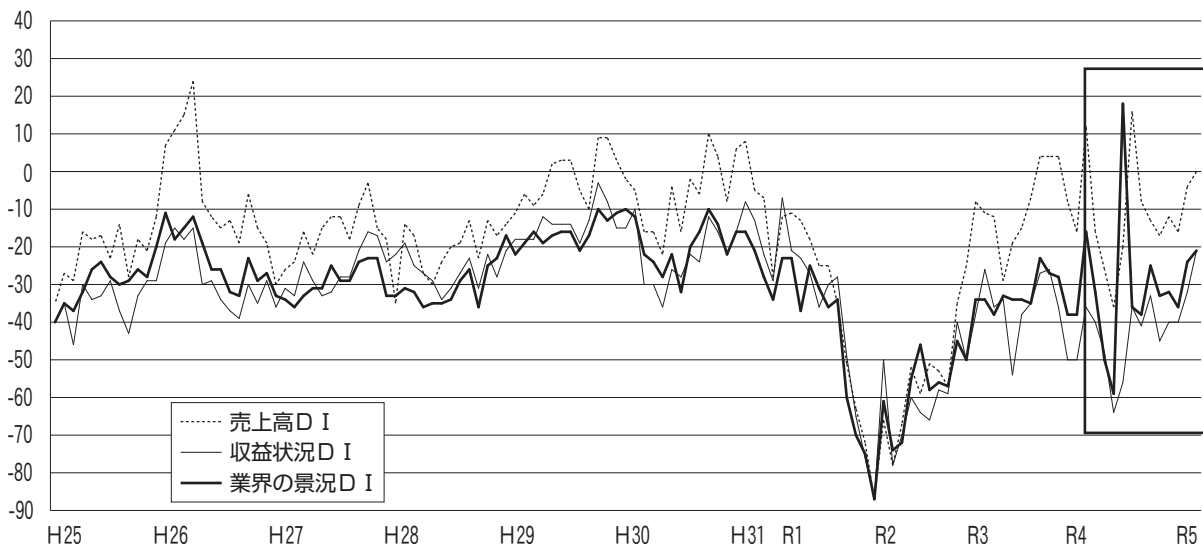
景況天気図

| 令和5年 4月分 | 全産業 | | | 製造業 | | | 非製造業 | | | 30以上 快晴 |
|-------------|---------|---------|----------|---------|---------|----------|---------|---------|----------|----------------|
| | 3月 | 4月 | 前月比 | 3月 | 4月 | 前月比 | 3月 | 4月 | 前月比 | |
| 売上高 | △4 | 0 | ↑ 4 | △14 | 0 | ↑ 14 | 10 | 0 | ↓ -10 | 10~29 晴れ |
| 在庫数量 | 16 | 5 | ↑ -11 | 13 | 0 | ↑ -13 | 25 | 13 | ↑ -12 | 9~△9 うす曇り |
| 販売価格 | 28 | 38 | ↑ 10 | 27 | 36 | ↑ 9 | 30 | 40 | ↑ 10 | △10~△29 くもり |
| 取引条件 | △8 | △17 | ↓ -9 | △7 | △21 | ↓ -14 | △10 | △10 | → 0 | △30~△49 雨 |
| 収益状況 | △32 | △21 | ↑ 11 | △46 | 0 | ↑ 46 | △10 | 0 | ↑ 10 | △50以上 大雨 |
| 資金繰り | △24 | △25 | ↓ -1 | △26 | △29 | ↓ -3 | △20 | △20 | → 0 | |
| 設備操業度 | △7 | △22 | ↓ -15 | △7 | △22 | ↓ -15 | | | | |
| 雇用人員 | △12 | △4 | ↑ 8 | △13 | 0 | ↑ 13 | △10 | △10 | → 0 | |
| 業界の景況 | △24 | △21 | ↑ 3 | △26 | △22 | ↑ 4 | △20 | △20 | → 0 | |

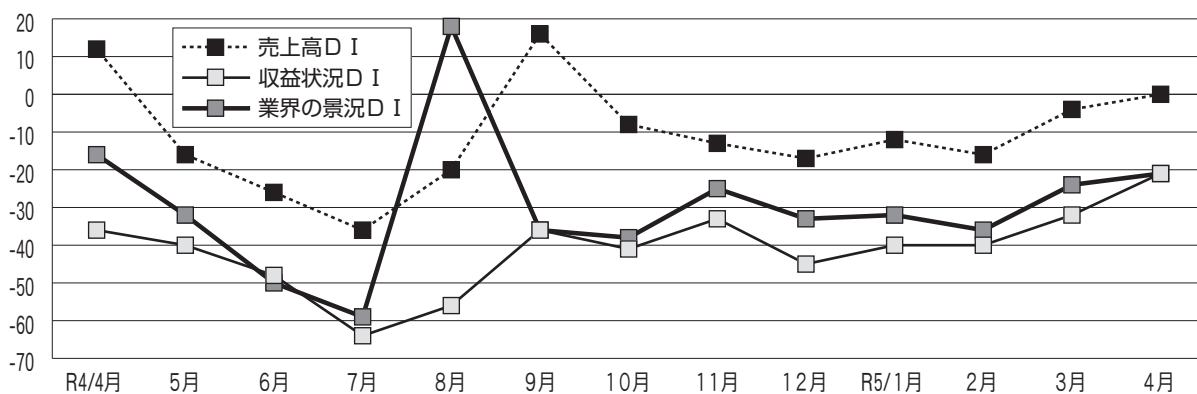
天気図の見方…各景況項目について「増加」(または「好転」)業種割合から「減少」(または「悪化」)業種割合を引いた値をもとに作成。その基準は右記のとおりです。ただし、在庫数量はプラスの場合は雨、マイナスの場合は晴れの方向に表しています。

DI (Diffusion Index: ディフュージョン・インデックス) とは、景気動向指数や景気判断指数と呼ばれており、景気動向を早期に把握するために使われる指標である。「増加・上昇・好転」といったプラス回答の比率から、「減少・低下・悪化」というマイナス回答の比率を差し引いて求める。

全産業 H25年4月～R5年4月のDIの推移



全産業 R4年4月～R5年4月のDIの推移



業種別概況 (4月分)

【製造業】



水産食料品製造業

当組合員の主要取引先でもある飲食店は、インバウンド等の影響もあり、売上も増加傾向である。但し、原料や電気代、ガソリン代など高騰しても販売価格に転嫁できない状況のため、売上は増加しても利益は減少と厳しい状況は続いている。また、節電したくても冷凍冷蔵庫や水槽など24時間365日稼働しているため、節電もできなくて経費ばかり掛かっている。



帽子製造業

前年と比較するとコロナの外出規制緩和に伴い、消費者の外出機会が増えたため、帽子の需要が回復したものの、生産拠点の東南アジア等でのコロナ禍に於ける生産

縮小に伴う供給不足や原材料の高騰などで、昨年は、上回る。コロナ禍で人員整理を行ったため、従業員を募集するものの、採用難のようである。



木材加工業

前年同月と比べて、売上は増加していますが、高額商品が売れたためであり実際は、前年の売上とほぼ横ばいです。林野庁が中心となって展開しているウッドチェンジ「木づかい運動」もあり、一般ユーザーへの周知も進んでいると思われるが、「銘木業界」としては、建築様式の変化等により未だ低迷しているのが現状です。



古紙収集加工業

4月も期変わりの季節であり古紙の発生は部分的に増えているが例年に比べると弱い。新聞古紙、雑誌古紙は慢性的

に発生量が落ちたままで推移。段原紙は大手国内製紙メーカーが減産を強化しており、段ボール古紙の発注量を調整している為問屋の在庫量は若干増加傾向。家庭紙向け原料の機密古紙の発生が増えており大手家庭紙メーカーの古紙在庫量は増加している、価格は高値の調整段階となっている。輸出市況：中国国内の大手メーカーによる減産が続いており段ボール古紙の需要は相変わらず低調。台湾・東南アジア向けの古紙輸出も数量・価格共に軟化している。

製本業

そこそこ、忙しかった3月も終わり、4月に入りピタッと仕事が途切れた感がある。従来はGW前まで仕事が廻っていたが、今年はその気配がなく、全国会議の折に聞くところ全国的にも暇なような話をされていた。ただ東京などにおいては3月期、コロナ禍前の倍くらいの忙しさがあったとのことである。

セルロイドプラスチック製品製造業

前月比30%アップ、前年比20%ダウンと低調な状況が続く。(前月が極めて低調であった為、前月比+となるも稼働率は極めて低い)

石鹸洗剤製造業

石けん、合成洗剤は前年を上回る品目が多くなり、原材料価格高騰の落ち着きもあり、価格転嫁も徐々に進み販売数量よりも販売金額が前年対比で大きくなっている。全体としてはコロナ禍前の状態に戻りつつあり回復基調にはあるが、原材料価格の高騰や人件費、運賃等の経費増の吸収は厳しく、経営を圧迫しているのが現状である。

鍛造業

生産量において、4ヶ月連続して前年を下回り、全体として6%程度の前年割れとなった。先月と同様、主要な自動車用及び産業機械・土木建設機械が共に10%弱の前年マイナスとなった。自動車業界の正常化が進みつつあるが、まだ稼働制御の影響があると思われる。

建築金物製造業

燃料価格、原材料費の高騰や物流コストの高止まり、政府による賃上げ要請など業界各社をとりまく経営環境は依然として厳しい状況にある。また、ウクライナ情勢の長期化、世界経済の減速のおそれなど、今後も景気の下振れリスクが懸念されるため、しばらくは先行き不透明な状況が続くものと予想される。

産業機器製造業

原材料の値上げ交渉はある程度目途がたったが、運賃等の値上は難行している。

印刷製本機械製造業

受注状況は若干回復してきているが、製品の価格上昇が、仕入れ部材や人件費の上昇を補えるほどにはなっていない。全てのコストが上昇しているが、それを完全に

商品価格の上昇でカバーはできていない。

配電盤製造業

使用する資材部品、材料の納期遅延が少しずつ解消されてきている。

【非製造業】

電気機器卸売業

- ・電線部門：銅価格建値の高値が続いており概ね増収・増益。
- ・電設部門：単価上昇にかかる価格転嫁進んでおり概ね増収の状況。(電線・電設部門ともに物量の増加は見られないものの、販売単価への転嫁が進み概ね順調)
- ・各社総じて順調な業績推移を確保、販売単価への転嫁も進み粗利面でも前年同月より好転。組合員企業においても少しずつ賃上げの動きも見られ、人件費・運送費等のコストインフレを懸念する声も多く、先行き不透明感は拭えない状況下にある。

衣服・身の回品卸売業

諸物価高騰が収まらず、収支環境は依然厳しい状況が続く。

二輪自動車小売業

4月は需要期にも関わらず引き合いが弱い、昨年秋に発注した新車が入荷してきているので、在庫過多となっている。その為に資金繰りも悪化している。

地質調査業

地盤調査に関わる業界は、3月納品が非常に多く、活況を呈しているように見える。4月になると、手持ち物件が極端に少なくなる。悪化ではなく、恒例の傾向と考えられる。

警備業

政府が個人旅行の解禁、水際対策の緩和等から警備案件(イベント)の受注業務が増加した事で売り上げも増加に転じた。

建設業

資材の不足による価格高騰が続いている。

タイル工事業

業界としては新築の着工数の伸び悩みから売上が停滞しており、コロナ後の回復とまでは言えない。又、24年からのドライバー不足の問題点が話題になっており、話合いの場もあったが、具体的な解決策は見つけられなかった。

貨物運送業

問い合わせ件数、見積依頼件数および受注件数もやや増加、販売価格も微増したが燃料、資器材の価格高騰が続いており経費が増加しているため収益はやや好転にとどまっている。